



高山西ロータリークラブ

例会報告

第 2630 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1966 年 1 月 15 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 大垣共立銀行 高山支店 4F
- 会長 鍋島 勝雄
- 幹事 中村 良平
- 会報委員長 粟原 藤義



「真冬のサーファー」 蜘蛛 康介

<会長の時間>

2010年~2011年度上半期最後の例会を迎えることが出来ました、会長を引き受けた時点では、ある程度、ロータリー精神を判っているつもりでしたが、時間が経つに連れて自分の考えが非常に甘く会員間のコミュニケーション不足をヒシヒシと感じるようになると同時に不況により新入会員の獲得が出来なかったことを反省しております。

しかし、今年度最大イベントの IM・創立45周年記念式典を、委員長を中心にして打ち合わせが行なわれまして大成功の内に終了させていただいたことは、高山西ロータリークラブの諸先輩から引き継ぎました伝統を大切にすること、仲間を大切にすることの結果だと思うと同時に誇りに思います。

また、各例会に於きましても、委員長の計画に沿って楽しい例会を行っていただきまして、お陰さまで大過なく上期を終了させて頂くことが出来ました、下期に付きましても宜しくお願い致しまして会長の時間とさせていただきます。



<本日のプログラム>

ニコニコ委員会

ニコニコ委員長

堀川 和士

本日はニコニコ委員会の担当例会です。驚く無かれ、ちょうどクリスマスイブでもあります、プレゼントのような

お話を模索しておりました所、私の狭い知人友人の中から「語り部ねっと」飛騨高山朗読会の代表をしておられます浅野晴夫さんをお願いした所、快くお引き受け頂いたという次第でございます。

「語り部ねっと」飛騨高山朗読会様は朗読者 17 名と協力者 3 名の総勢 20 人で構成されている様でございます。本日はその中から、代表の浅野晴夫様・朗読指導部長の藤森泰子様・会計の福地紀久代様・監査公報の小池千鶴子様・公報の浅野千恵子様の大幹部 5 名様にお越しいただきました。

私と親しくして頂いている代表の浅野晴夫様をご紹介しますと、朝日町でスナック「春」を何十年もやって見えて、会員の皆様もお馴染みのことと思われまふ。私との関係はと申しますと、ご長男のお嫁さんが当社アウトパーンの事務員で長年お世話になってから親しくお付き合い願っております。

また、ご次男は山口大学で助教授をされており、先だっの市民時報でも紹介されましたが、第 49 次南極越冬隊として参加されていたことは記憶に新しい事と思ひます。

ちょうどお時間となりましたので、朗読をお願いしたいと思います。Oー・ヘンリー：作、大久保康雄：訳、藤森泰子：脚色「賢者の贈りもの」でございます。それではよろしくお願ひ申し上げます。



<幹事報告>

◎RI日本事務局より

- ・ベネファクター認証盾
- およびピンバッジ
- 鍋島 勝雄さんへ



◎RI日本事務局より

- ・1月のロータリーレートについて 1ドル 84円 (現行82円)

<受贈誌>

台北東海RC(会報)

<出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	37名	7名	44名	44名	100.00%
本日	39名	—	39名	44名	90.90%

「語り部ねっと」飛騨高山朗読会 代表：浅野 晴夫 様



例会報告

朗読指導部長：藤森 泰子 様、会計：福地 紀久代 様、
監査 公報：小池 千鶴子 様、公報：浅野 千恵子 様



<ニコニコボックス>

●鍋島 勝雄さん

今年最後の例会を無事迎える事が出来ました。また、ゲストとして飛騨高山朗読会の皆様には年末という忙しい時にありがとうございます。宜しくお願いいたします。

●中村 良平さん

飛騨高山朗読会の皆様、ようこそお越し下さいました。今日はよろしくお祈りします。先週の例会、遂に休みました。「会長のお休み多いんじゃないの」と言った矢先の事でした。すみませんでした。

●堀川 和士さん、平 義孝さん、遠藤 隆浩さん

垂井 政機さん、寺田 一夫さん、

本日はニコニコ委員会の担当例会でございます。会員の皆みな様、心穏やかにクリスマスイブのお昼の部をお過ごし下さい。ゲストに「語り部ねっと」飛騨高山朗読会より、浅野様ご夫妻、藤森様、福地様、小池様ようこそお越し下さいました。朗読のプレゼントをよろしくお祈りいたします。

●寺田 昌平さん

「語り部ねっと」飛騨高山朗読会 浅野晴夫さん、スナック「春」のマスター、本日は楽しみにしています。いつもニコニコ、スナック「春」へ少しだけ。

●菱川 正臣さん

1回目の手術から6年、2回目の手術から5年近く過ぎ、今年は念願の楽しむゴルフを再開しました。元気で呑み、遊べる回復に感謝してニコニコへ。

●米澤 久二さん

卓球の飛騨選手権に参加しました。3戦3敗(全敗)でしたが45才以上の部で3位になりました。賞状と記念のタオルをいただきました。一回も勝たなくても、参加者がとても少なく、しかも棄権が出て、結局3位。世の中には「まさか」があるもんですね。

●伊藤 松寿さん

またまたネームプレートを忘れてきました。誠に申し訳ありません。年が改まりましたらお返しします。いずれにせよ鍋島会長・中村幹事、本年度の前期が終り折り返し地点となりました。おめでとうございます。後期もガンバッテ下さい。

ところで、このお話の題名となった「賢者の贈りもの」とは、どんな贈りものなのでしょう。

今日、十二月二十四日は「クリスマス・イブ」。イエス・キリストがお生まれになった日とされています。

ベツレヘムの馬小屋で生まれ、救い主と呼ばれるイエス・キリストの誕生を一番初めに知ったのは、野原で羊の番をしていた羊飼いたちでした。不思議な星の光に導かれてベツレヘムの町へやって来ますと、光は馬小屋の上でぴたりと止まりました。飼馬桶の中ですやすやと眠っている赤ちゃんがイエス・キリストでした。不思議な星の光は、東の国からも三人の博士をベツレヘムへ導きました。三人は持ってきた宝物「黄金と乳香と薬」を捧げたというのが「賢者の贈りもの」の由来です。

この時からクリスマスには、親しい者同志、贈りものをするという風習が生まれたようです。

ところでジムとデラは、自分の一番大切な宝物をあまり賢くない方法で、しかもお互いに大きな犠牲を払って、贈りものをしてしまいました。でも、このちぐはぐな贈りものこそ、お互いに相手を思いやる優しい気持ちの表れで、愛する心を贈りものとしたこの二人こそ、最も賢い人たちだったといえるのではないのでしょうか。

冬が来た 高村 光太郎
 きつぱりと冬が来た
 八つ手の白い花も消え
 公孫樹の木も箒になった
 きりきりともみ込むやうな冬が来た
 人にいやがられる冬
 草本に背かれ、虫類に逃げられる冬が来た
 冬よ
 僕に来い、僕に来い、
 僕は冬の力、冬は僕の餌食だ
 しみ透れ、つきぬけ
 火事を出せ、雪で埋める
 刃物のやうな冬が来た